

研究課題：尿路閉塞の画像診断とその後の経過について

1. **研究の目的：**尿路の閉塞の原因の検索のための画像診断とその後の経過について検討します。
2. **研究の意義：**尿路閉塞は、小児においても遭遇する可能性のある疾患です。先天奇形としての尿路狭窄、結石、腫瘍性病変などが尿路閉塞の原因として考えられます。原因検索のため、画像検査が依頼されることが多いですが、その後の治療方針の決定において重要な情報となります。診断には超音波検査、尿路造影、CTやMRIが用いられますが、これらの画像検査の正診率などをまとめた報告は少ないです。今回、尿量減少・無尿や腎機能障害など臨床的に尿路閉塞が疑われ、画像検査が依頼された患者様について、画像所見と、それに基づく尿路閉塞の原因の診断、最終的な外科的介入による診断とその後の経過について検討します。尿路閉塞の診断における画像診断の精度がわかれば、より適切に次検査の計画や治療方針にアドバイスが可能となると考えられます。
3. **研究の方法**
2000年9月から2025年2月までの尿路閉塞が疑われた患者様の臨床情報と経過、治療法、画像所見を後方視的に調べます。
4. **研究期間**
2025年3月（倫理委員会で承認を得られた日）から2025年12月まで。
5. **研究に用いる資料・情報の種類**
臨床情報と画像検査、その後の経過に関する事柄（画像、検査所見、治療方法、臨床所見）を調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。
6. **外部への資料・情報の提供、研究成果の公表**
この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。
7. **研究組織**
研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

実施責任者：放射線科 医長 細川崇洋
実施分担者：副病院長 小熊栄二
放射線科 科長 田波穰
放射線科 医長 佐藤裕美子

8. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2025 年 6 月 30 日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）